岩手県立博物館研究報告　第32号　2015年3月　31～46ページ
Bulletin of the Iwate Prefectural Museum, no.32, pp.31～46, March, 2015

南部流風流山車の研究Ⅰ

山屋賢一

The Charm of Nannburyu Huuryu dashi

Kenichi YAMAYA

岩手県立博物館　020-0102　岩手県盛岡市上田字松屋敷34　Iwate Prefectural Museum, Morioka 020-0102, Japan.

岩手県盛岡市の秋祭りに登場する「八幡宮祭典山車」の作法は盛岡城下を中心に広く南北に伝播し、岩手県内に広く見られる人形を飾った山車の典型となっている。当報告ではこの作法に基づく祭典山車一般を南部流風流山車と呼び、執筆時点での催行状況を記録する。

1　分布範囲

南部流風流山車行事の分布域は岩手県北部（二戸郡・岩手郡）、県央部（紫波郡・旧稗貫郡）、県南部（花巻市周辺）と広範に亘り、そのうち以下に述べる作法におおむね適う例は次の通りである。

・盛岡市／盛岡八幡宮祭典／9月14日・15日・16日に運行／い組・は組・と組・わ組・か組・よ組・た組・な組・の組・お組・や組・さ組・め組・み組・一番組・二番組・三番組・本組・青山組・城西組・南大通二丁目・盛岡観光コンベンション協会　等から例年7～8組程度が出場

・一戸町（1）／八坂神社・稲荷神社祭典／8月最終金曜・土曜・日曜に運行／本組・上町組・橋中組・野田組・西法寺組が毎年出場

・一戸町（2）／小鳥谷八幡神社祭典／旧8月15日直近の土曜・日曜に運行／に組・野中若者連が毎年出場（借上げ）

・二戸市　※旧浄法寺町／神明社大祭／9月中旬に2日間運行／上組・仲の組・下組が毎年出場（借上げ）

・岩手町（1）／沼宮内稲荷神社祭典／10月最初の金曜・土曜・日曜に運行／新町組・大町組・の組・愛宕組・ろ組が毎年出場

・岩手町（2）／川口豊城稲荷神社祭典／9月23日を含む3日間の運行／井組・下町山道組・み組が毎年出場

・葛巻町／八幡宮祭典／9月第4土曜・日曜／下町組・浦子内組・新町組・茶屋場組が毎年出場（借上げ）

・滝沢市／神社の祭典ではない／9月最終土曜・日曜に運行／滝沢山車まつり実行委員会が毎年出場

・八幡平市／大更八坂神社祭典／7月15日に運行／西根山車同志会が毎年出場（借上げ）

・岩泉町／大神宮祭典／9月第一日曜日に運行／南沢廻町内会が出場

・紫波町（1）／志賀理和気神社祭典／9月第一土曜を含む金曜・土曜・日曜に運行／上組・一番組・橋本組・下組が毎年出場（うち1台借上げ）

・紫波町（2）／志和八幡宮祭典／9月8日・9日に運行／志和町山車が毎年出場

・花巻市（1）／石鳥谷熊野神社祭典／9月8日から10日まで運行／下組・上若連・中組・上和町組・西組が毎年出場

・花巻市（2）／愛宕神社・金毘羅神社・早池峰神社祭典／9月23日に運行／上若組・下若組・川若組の中から数年に1台程度出場（借上げ）

※他に、盆の14・16日に南部流風流山車と同じ台車・作法の「あんどん山車」の運行がある

この他、南部流風流山車に限りなく近い意匠の風流山車を引く祭典が北限付近では二戸市・軽米町、南限付近では北上市・花巻市東和町に見られる。

2　作法

南部流風流山車には、おおむね以下の6つの作法が共通してみられる。

（1）大八車

南部流風流山車の台車は総ヒノキもしくは総ケヤキの造りで「大八車」とよばれ、昔ながらの技法で一つ

一つ材木を組み上げて作る二輪の台車である。直径1.3mの車輪を取り付けた台車の前方および後方に丸太を通し、これを「舵棒」と呼ぶ。「強力」と呼ばれる屈強な若い衆が舵棒を押したり引いたりして7～8人がかりで山車を動かすが、力が足りない分は舵棒の横から綱を通し、これに引き子がついて「やれやれ遣れ遣れ」の掛け声で引き歩く。車輪が回るとギイギイと大きな音が鳴るが、当地ではこれを「車が鶴の声で鳴く」と喜び、また大八車そのものは万年生きる亀の形ともいって縁起を担ぐ。これに飾りを配して約4.5メートルが執筆現在の平均的な山車の高さである。

（2）風流人形

京人形造りの風流人形が南部流風流山車の主役であり、これは祭典のたびに新しく作り変えるものである。頭・手足のみ木彫で、材木で芯（箱型の胴体に垂木を打ち付けたもの）を作り稲藁と綿で肉付けする。本来は当年の稲藁を使い、山車人形として神に供え豊年を報告する意味があると云われる。表に使う人形は面長1尺1寸・全長で7～9尺、原則として1ないし2体を飾る。京風の山車人形で等身大を逸脱する例は全国的にも珍しい。首は顔の塗り直しによって歌舞伎用にも武者用にもなり、髪は馬の毛を植える。演題（人形飾りの題材）は、歌舞伎の場面を作った「歌舞伎もの」と、歴史上の名場面を作った「武者もの」「裸人形」等に大別される。

歌舞伎ものは、明治・大正期に八幡宮境内で演じられていた芝居や子供歌舞伎を移して作ったものとも、芸事の起源である天岩戸神話にあやかり祭りの始まりにちなむ意図とも云われる。盛岡以南では歌舞伎演題を選ぶ山車組が多く、豪華な衣装や美しい見得の再現いかんが見所となる。

（主な歌舞伎演題）

「和藤内（虎退治・紅流し）」「暫（大太刀・元禄見得・引っ込み等）」「矢の根五郎（矢砥ぎ・駆け出し・大根馬等）」「勧進帳（巻物・折檻・飛び六方等）」「鳴神（追っかけ・竜神と・経破り・柱巻等）」「景清（牢破りの景清：一体・捕り手と）」「解脱（釣鐘の景清とも：鐘乗り・鐘上げ）」「助六（出端・髭の意休・紙衣・水入り等）」「不動」「毛抜」「象引き」「鳥居前（狐忠信、源九郎狐とも）」「狐忠信」「松前鉄之助」「仁木弾正」「弁天小僧（河原・女装）」「熊谷陣屋」「楼門五三桐（石川五右衛門）」「土蜘蛛の精」「碁盤忠信（一体・つぶし付）」「雨の五郎」「毛剃九右衛門」「石橋（一体・二体）」「連獅子」「鏡獅子（田中の型・胡蝶付き・髪洗い・跳躍等）」「小鍛冶」「元禄忠臣蔵」「弁慶上使」「車引き（梅王丸と時平・松王丸と時平・梅王丸と松王丸）」「寿曽我対面」「草摺引（五郎のみ・朝比奈付き）」「道成寺押し戻し（竹抜五郎）」「関の扉（二体・黒主のみ）」「里見八犬伝芳流閣の場」「紅葉狩（鬼女のみ・二体）」「上意討ち」「奥州安達ヶ原」「日本振袖始」「猩々」「操り三番叟」　※見返しは後述

沼宮内・一戸など盛岡以北の山車には武者もの・講談ものが多く、盛岡にも専ら武者演題だけを採る山車組がある。人形の数が限られる等山車としての制約の下でいかに簡潔に名場面を表現するか、発想と工夫が見所となる。源平合戦･義経関連の演題が最も多いが、太平記ものや戦国もの、郷土史を取り上げたものもある。時には負け戦・絶命の直前を描くような演題もあるが、先人の辛苦の上に現在の繁栄があることを踏まえ神への感謝を新たにする心意気が込められている。

（主な武者もの）

「天慶の乱（平将門馬上・藤原純友船上）」

源平もの：「天狗と牛若丸（鞍馬山）」「五条の大橋（牛若丸弁慶）」「義経一の谷（鵯越の逆落とし）」「義経弓流し（義経屋島の戦）」「義経八艘飛び（義経のみ・教経付き）」「吉野千本桜」「高舘の戦」「釣鐘弁慶」「船弁慶」「弁慶立ち往生」

「遠藤盛遠」「平清盛」「清盛と重盛」「鵺」「佐々木高綱」「宇治川の先陣争い（高綱と景季）」「巴御前」「熊谷次郎直実」「畠山重忠」「那須与一」「碇知盛」

太平記もの：「四条畷（楠木正行、小楠公とも）」「村上義光（山伏姿・鎧姿）」「児島高徳」「新田義貞（稲村ヶ崎・藤島）」「大楠公（楠木正成、湊川の戦）」

戦国もの：「川中島」「森蘭丸（本能寺の変）」「加藤清正虎退治」「日吉丸」「かめ割り柴田」「明智光秀」「地震加藤」「信長桶狭間」「敦盛の舞」「本多忠朝」「真田幸村」「坂崎出羽守千姫救出」「山内一豊」「元就厳島の戦」「小牧山合戦」「井伊直政」「独眼竜政宗」「武田の軍師山本勘助」「前田利家」「直江兼続」「中国大返し」

郷土史：「坂上田村麻呂」「安倍宗任（官女と）」「安倍貞任」「前九年の合戦（貞任と宗任）」「八幡太郎義家」「ゆはずの泉」「藤原経清」「後三年の役（藤原清衡）」「藤原秀衡」「九戸政実」「南部信直」「南部利直（騎馬武者・大蛇退治）」「南部重直（火消し装束）」「南部重信」「南部光武者」「川口源之丞正家」「北主馬秀愛」「姉帯

大学兼興」「南部荷姫」「むかで姫」「相馬大作」「原 敬」

浴衣一枚の簡素な衣装で木目込みの躍動的な骨組みを全面に出す「裸人形」は、盛岡の山車職人たちが最も得意とした趣向であり、南部流風流山車ならではのものであった。題材は講談・芝居などから求め、町奴や力士を主役に作る。

（主な裸人形演題）

「早川鮎之助」「関口弥太郎（籠担ぎ、宮本武蔵と）」「桂川力蔵」「四ツ車大八（一体車輪上げ・火消し付き・荷車上げ）」「濡髪長五郎」「幡隋院長兵衛」「唐犬権兵衛」「釣鐘弥左衛門」「一心太助（一体・大久保彦左衛門と）」「遠山桜（遠山金四郎とも）」「為朝公（湯上り為朝とも）」「嶋の為朝（弓打ち・山犬大蛇）」「清水一角」「丸橋忠弥井戸端」「巌流島」「紀伊国屋文左衛門」

動物や化け物などを伴う演題は特に「退治もの」として区別され、伝承域北半に名手が多い。また、船や門・大屋根など大道具を見所とする演題群もある。

（主な退治もの・動物もの）

「児雷也（蝦蟇）」「綱手（蛞蝓）」「大蛇丸」「羅生門（鬼）」「紅葉狩（鬼女）」「道成寺押し戻し（鬼女）」「土蜘蛛」「日本振袖始（鬼女）」「松前鉄之助（鼠）」「鬼童丸（牛）」「木曽義仲倶利伽羅峠（牛）」「和藤内（虎）」「加藤清正（虎）」「因幡の白兎」「鳴神（龍）」「たつのこたろう」「八岐大蛇」「山犬と為朝（蛇）」「為朝大蛇退治」「藩祖（南部利直公）大蛇退治」「畠山重忠（馬）」「曲垣平九郎（馬）」「岩見重太郎ヒヒ退治」「唐犬権兵衛」「丸橋忠弥（犬）」「仁田四郎忠常（猪）」「俵藤太秀郷（百足）」「大江山の鬼退治」「坂田金時・源頼光蜘蛛退治・若菜姫・安倍晴明（蜘蛛）」「里見八犬伝犬村大角・有馬の猫騒動・鍋島騒動（猫）」「鬼若丸・乙若丸・滝窓志賀之助・柳川庄八（鯉）」「源三位頼政鵺退治」

（船もの）「毛剃九衛門」「碇知盛」「紀伊国屋文左衛門」「藤原純友」「河野通有（蒙古襲来）」「坂本竜馬」「日蓮上人」「九鬼水軍」「宝船」

盛岡地方の山車組は消防団を核とするものが大半であり、山車人形に火消しの粋な姿を凝らす例がある。

（火消しの山車）

「日本銀次」「野狐三次」「新門の辰五郎」「江戸火消し」「纏一代」「南部火消し」「南部梯子乗り」

見返しといって山車の裏側にも人形を飾る。等身大（面長6～8寸）の女の踊り人形を使う例が多い。表の趣向と対の題材もあるが、関係無い題材もある。女形の他に昔話やお目出度い景色も見返しに作られ、表に出す趣向が縮小されて見返しになることもある。

（主な見返し演題）

表裏対応：「静御前（白拍子・旅姿等、義経ものと対）」「牛若丸（義経ものと対）」「胡蝶の精（石橋・連獅子・鏡獅子と対）」「お小姓弥生（手獅子・扇、鏡獅子と対）」「三浦屋揚巻（助六と対）」「八重垣姫（川中島と対）」「雲の絶間姫（鳴神と対）」「錦祥女（和藤内と対）」「真柴久吉（楼門五三桐と対）」「文覚上人（遠藤盛遠と対）「山中鹿之助（早川鮎之助と対）」「藤の方（熊谷陣屋と対）」

歌舞伎・舞踊・芝居：「藤娘」「汐汲み」「道成寺（笠・烏帽子・手拭・鐘）」「禿（かむろ、羽根の禿）」「女暫」「元禄花見踊り」「菊づくし」「手習子」「滝夜叉」「鷺娘」「浪枕月浅妻」「屋敷娘」「吉原雀」「八百屋お七」「お嬢吉三」「時雨西行江口の君」「八島官女」「玉屋」「供奴」「お祭り」「保名」「流星」「三番叟」

御伽話：「花咲爺」「養老の滝」「一寸法師」「桃太郎」「金時（金太郎）」「浦島太郎」「たつのこたろう」「鶴の恩返し」「ぶんぶく茶釜」「かちかち山」「かぐや姫（竹取の翁、月に帰る姫）」「孫悟空」

景勝・瑞勝：「二見ヶ浦」「鶴と亀」「めでたい」「十五夜」「鯉の滝登り」「不動の瀧」「石割桜」「杉生桜」

正面縮小型：「児島高徳」「助六」「源九郎狐」「猩々」「早川鮎之助」「雨の五郎」「黒田武士」

「わんこ娘」「手古舞」「雫石あねっこ」「ふれあい娘」「さんさ踊り」「甚句踊り」「外山あね子」「からめ踊り」「根反鹿踊り」「川口狐踊り」「大宮神楽」「飴売り」「鳥売り」「団扇売り」「朝顔売り」「春駒」「鳥追い」

以下は、調査時点で作例が極端に乏しくなったもの。

七福神の山車には専用の大きな頭を使い、「大黒さん」「つり恵比寿」を出すのが主だが、平成以降は表の趣向にほとんど採られず、見返しに使う例が多くなった。

人物の無い山車は主に戦前に盛んだった趣向で、鯛や達磨やウサギ等をただ大きく作って飾る。牡丹・松・桜など定例飾りは一切無しにする。「鯛」を代表に、「伊勢海老」「鰹」「章魚」「花籠」等が登場した。

盛岡や沼宮内で昭和30年代まで「納め物」「上げ物」

と呼ばれる山車が出ていた。神鏡、狛犬、手水鉢、旗、太鼓、額、衝立、灯籠、提灯、天蓋など様々なものを記念品として祭り組が神社に奉納するが、ただ奉納するのでなく祭典を機に納め、祭典に於いて奉納品を飾り物として山車を作り観衆にお披露目した。見返しには昭和50年代まで登場例がある。

山車人形の製作・管理に当たっては長らく数名の職人が担い、後述の絵紙や音頭の作詞なども専門家が手がけ、調髪についてもプロの髪結いが行っていた。現在はこれら全てを地元組で行う例が増えてきている。

一部の町村では自前で人形趣向を作らず、他町の祭典で使用したものを購入して飾る「借上げ」を行う。

（3）飾り方

南部流風流山車の装飾には「天・人・地・海」と呼ばれる定型がある。天井部分には生木の松を取り付け、枝には作りものの藤蔓を絡ませ、紙を染めた藤の花を何房も垂らす。側面左右には紅白の牡丹を付けるが、これは紅白の晒に金型をかがり縫いして切り抜き、3層に重ね折り曲げて作る（さんさ踊りの花笠に付くものと同じである）。牡丹は山車に熨斗を付ける役があるともいわれ、左に白牡丹・右に赤牡丹を備え、白は銀・赤は金の水引で縁を取る。コブの木を芯にして取り付け、花の芯には豆電球を入れる。数に定めは無いが、平均して一台に70個程度付く。

松の左横に満開の桜を飾るが、これはわずか3日で終わる祭りの儚さを表すとされる。丸鑿で型抜きした和紙を折りたたんで染色し、10枚貼り合わせて玉に作り膠で山桜に枝付けする（別の植物の枝を使う例もある）。花は一台におよそ300～500個ほど付く。花びらの縁を赤く染めた里桜と芯を赤く染めた山桜の2種類があり、おおむねいずれか一種を飾ることが多いが、2種類を併用する例もある。枝先には花芽（蕾、若葉）を付けて金銀の短冊を吊るした紐でくくり、光があたると神秘的な輝きを起こすよう工夫する。他に、椛や山吹を加える地域もあり、一戸では「夏に秋祭りをやるため、秋を醸す飾りとして使う」との説がある。

人形の足元には張子の黒岩を飾って紙製の笹の枝をさし、水玉のついた銀の波しぶきと波の絵（横波・盆波）を飾る。大八車の横には滝の絵を下げ（下げ波・滝波）、桜と同じ製法で作った大きな軒花（玉桜・大桜）を添える。軒花は散って流れに落ちた桜を表すもので、桜と軒花とは同じ染め方にするのが正しいともいわれる。盆波や滝波は、悪い神を水に流す意図ともいう。

これら山車を彩る造花類については、山車組で自作する例もあれば、業者から購入する例もある。

昭和50年代以降は、山車に色とりどりの夜間電飾が施されるようになった。

（4）引き子・囃子

南部流風流山車の引き手は火消し装束で、黒の股引に半纏、子供は豆絞りを締めて襷を掛ける。山車の前には金棒引き、通称手古舞と呼ばれる厚化粧に鬘の女性たちが花を添え、先導役としてひょっとこなど道化を付ける山車組もある。

山車は手木打ち（正式にはキガシラという）の先導で、強力と引き子により全て人力で動かす。手木打ちは常に山車と向かい合わせになって後ろ歩きをし、囃子の統率もする。

囃子は子供5～6人で叩く小太鼓の2拍子「歩き太鼓」を基調とし、成人男女が4人程度で叩く大太鼓、横笛、鉦を合わせたものである。大太鼓のリズムは伝承圏内ではほぼ大差なく、必ず大太鼓を見返し、つまり山車の裏側に据える決まりになっている。鉦は大太鼓と同じリズムで打たれ、笛は綱の周りや曳き子の前方ないし山車の後ろで吹く。曲調は伝承圏内でおおむね2通りあり、この他組独自の曲を使う例もある。

山車を止める時は「まっちゃ」を単発で叩く。まっちゃには、音頭上げの前に叩く上げ太鼓（二つ）、一時停止で使う止め太鼓（三つ）、休憩に入る際・休憩明けの際に叩く休み太鼓（四つ）がある。山車の進行を早める時は、歩き太鼓を早めた早太鼓を演奏する。

（5）音頭上げ

山車演題の由来や無事に祭を迎えられた慶び、豊かな郷土への賛美、自分たちが如何に粋であるか…などを七・七・七・五の26文字で謳うもので、江戸の木遣節を起源としている。特にも山車演題の由来を木遣りで謳うのは盛岡地方独特のことで大変珍しく、演題が更新制であるため、音頭の歌詞も年毎に新作されるのが原則である。山車を出すための資金は、組の若衆が一軒一軒を訪ねて集めて回る。山車を伴う花もらい（花：寄付のこと）を「本隊」、山車の運行コース以外を回る花もらいを「支隊」といい、本隊ならば山車がその家に差し掛かったときにお礼の音頭を上げ、支隊の場合は花もらいが各戸にて音頭を上げるか、お花の上がった家の前に印を描いて（白チョークで丸印に組の名前など）本隊への目印にする。音頭は歌詞を認

めた白い扇をかざして上げるが、山車を伴う場合は山車の正面を向いて上げる組と、祝儀先を向いて上げる組がある。

音頭はもともと山車を動かす合図だが、盛岡地方では祝賀・余興の意を強めて行っている。社会生活の変化等で「花もらい」の伝統を改め戸口負担の寄付集めを行っている地域もあるが、盛岡・一戸・沼宮内・川口などでは住民の理解と催行側の意欲によって、希少な風習が根強く残っている。

音頭歌詞の一例

（お祭りを祝う）

今年は豊年（ほうねん）　八坂（やさか）の祭り　山車を引き出せ勇ましく

（山車組を歌う）

霊峰岩手（れいほういわて）を　仰（あお）ぎてかしこ　盛（さか）る青山（あおやま）　守る組

（家を褒める）

この家家柄（ややから）はめでたい家柄　四（よ）つの隅（すみ）から黄金湧（こがねわ）く

（神社を歌う）

朝日輝く　熊野（くまの）の祭り　商売繁盛の　守り神

（演題音頭：外見　　例：「風流　矢の根五郎」）

蝶も華やか　襷は仁王　矢の根五郎の　見得（みえ）のよさ

（演題音頭：筋書　　例：「風流　矢の根五郎」）

兄の願いを矢の根に込めて四方に睨（にら）みの見得を切る

（納め音頭：最終日の最後に歌う）

心合わせの　祭りも無事に　納め音頭の　声さやか

（6）絵紙

音頭上げのほかに、寄付のお礼として当年の山車の絵を家々に配る。これを絵紙（えがみ）ないし番付（ばんづけ）と呼び、大きさはＢ４用紙の２倍、斜め横を向いた静止した山車の絵を中央に、上に神社名と奉納年・月（「奉納〇〇神社祭典山車」「昭和〇〇年九月」）、左右に音頭上げの文句（右が表の演題、左は見返しの音頭か演題に絡まない音頭）、右下に演題の解説、左下に山車を出した組の名前がそれぞれ記してある。これを８つに折って帯を付け、各家々に配る。原則として非売品の扱いとする。

盛岡ではすでに明治末期に絵紙の存在が認められ、岩手町沼宮内では大正期・紫波町日詰で昭和30年代・一戸町では昭和40年代まで遡ることができる。現在は多色刷りの絵紙が殆どだが、もとは一色刷り・人形部と台車部を別の色にする二色刷りが多かった。

地域によっては、紙でなく布に山車の柄を染め、手拭にして配るところもある。

３　各地の例

本報告では紙数の関係上、盛岡市及び一戸町一戸の２例について述べるにとどめる。

（1）盛岡市　盛岡八幡宮祭典山車

毎年９月14日に盛岡八幡宮に奉納され、以降３日間にわたって市内を練り歩く更新趣向の風流山車である。山車行事の起源は藩政期にさかのぼるが、現在の形態が定着したのは、市内に電線が張られて山車の高さに一定の制限が加わった大正期と思われる。

14日午後１時に盛岡八幡宮門前を発する神輿渡御行列は「八幡下り（はちまんくだ）」と呼ばれ、各組で高張（たかは）り提灯・金棒引き・手古舞・役員旦那衆・笛・引き綱と勢子（せこ）（引き子）・山車と強力・鉦…と皆同じ火消し半纏姿で揃えた正式な山車行列を見せる。すべての山車が連動して動くのは八幡下りと15日午後６時の大絵巻パレードで、この他は組ごとに経路を決め、祭典期間の朝から晩まで市内を花もらいに歩く。

南部流風流山車伝承地域のうち、盛岡だけは年によって山車を出す団体が異なり、他の地域のように毎年出す山車組は少ない。分団長（ぶんだんちょう）の交代や創立記念など組の祝い事に結びつけての山車奉納が多く、３年に１回・５年に１回など周期を持つ山車組もある。大正期から平成初期の登場演題を表１に示した。

（2）一戸町一戸　八坂神社・稲荷神社祭典山車

町内に今も遺る恵比寿人形（大阪府「天神祭り」のお迎え人形）を明治後期に祭典に担ぎ出したのが一戸の山車の始まりといわれ、大正に入って盛岡の消防団から風流山車の作法を伝えられた。かなり早い段階で自前の山車を手掛け、盛岡ではほとんど製作例の無い奇抜な演題も多く創作している。台車の盆は盛岡の卵型に対し一戸では四角く、牡丹は２層重ねで花弁の数が少ない。波しぶきは盛岡より長く作る。

昭和40年代に交通事情に伴う行政の規制によって山車行事が途絶えかけたが、バイパス完成の昭和58年に従来どおり５台の山車が揃い現在に至る。音頭上げに並行して太鼓をたたく、掛け声に二戸以北と共通する例（「よーいさよいさ」）が混じる、山車を止めるときに独特の拍子を使う等、当地ならではの特色があり、飾り方も５つの組おのおのの作法を伝えている。

盛岡、八戸と並んで古くから山車の貸し出しを盛んに行い、祭典終了後は約１ヶ月間にわたり、県内各地で一戸の山車人形が引き出されている。大正期から平成初期の各組歴代演題を表２に示した。

要　旨

南部流風流山車の作法は、その伝播域の広さから考えても岩手の山車の典型と見做しうるもので、他の作法に比べ古風で格調高く、繊細な表現をとどめている。年毎に趣向を一変させる性質上、その伝承には高い資質と深い知識・細やかな配慮が求められる。

キーワード：祭礼、山車、年中行事、歌舞伎、造花

写真１　武者山車『義経八艘飛び』（岩手町川口）

写真２　騎馬武者『真田幸村』（紫波町日詰の山車）

写真３　裸人形『釣鐘弥左衛門』（一戸町の山車）

写真４　歌舞伎山車『矢の根』（岩手町沼宮内）

写真５　退治もの『加藤清正』（花巻市石鳥谷の山車）

写真６　見返し『静御前』（盛岡市の山車）

表１　盛岡市　盛岡八幡宮祭典山車の歴代演題（大正期～平成９年）

奉納年	武者もの	歌舞伎もの	その他
大正02年		●『松前鉄之助』鉈屋町	●『鯉に金時』上小路 ●『徳田･木村両中尉慰魂　ブレリオー式軍葉(用)飛行機』肴町若連中 ●『釣鐘に鳩』本町 ●『大蕪』停車場前 ●『二見ヶ浦』十三日町発起人 ●『宮太鼓』穀町有志者 ●『締太鼓』紺屋町 ●『十二鏡』新穀町 ●『馬印』三ツ家 ●『提灯奉納』生姜町若連
大正03年	●『加藤清正(朝鮮国より富士を見る、２体)』長町	●『小林朝比奈』馬町･六日町二若連 ●『安宅関(弁慶巻物)』肴町	●『めでたい(鯛に大漁旗)』紺屋町 ●『桃太郎凱旋(鬼と財宝)』油町 ●『赤穂義士討入』鉈屋町
大正04年	●『碁盤忠信(２体、非歌舞伎)』 鉈屋町有志一同	●『石橋(親獅子)』紺屋町第四部 ●『石橋(子獅子)』八幡町若者連 ●『吉野山狐忠信静御前道行』本組	●『月兎』餌差小路・新馬町若者連 ●『四神(高覧の四方に四神、中央に宮旗)』穀若連 ●『奉納飾弓矢』五小路有志一同(鷹匠小路・馬場上衆小路) ●『達磨大師(大達磨)』 八日町若者連 ●『達磨大師(小達磨)』 長イ町子供連（上田組町） ●『神宮皇后三韓征伐』上小路 ●『宮本武蔵　大蛇退治』 消防組第一部 ●『息長姫(神功皇后鮎占い、２体)』 中野有志者一同 ●『鯉の滝登り』新築地子供連中
大正05年	●『村上義光錦旗奪還の体』 紙町鍛冶町若者一同	●『和藤内(紅流し、橋の下にも滝)』 消防第三部 ●『平仮名盛衰記逆櫓の場　松右衛門事樋口次郎兼光』餌差小路有志一同	●『蛸』下小路小供連 ●『吊燈篭と御鏡』 仙北町仙北組町青物町有志 ●『繭に蛾／蚕卵紙と姫』厨川有志 ●『小野道風』穀町若者連 ●『八幡宮奉納額』大手先通り ●『神撰』内丸子供連 ●『竜樹菩薩』三戸町連合山車 ●『桂川仇討之体』消防組第七部 ●『孝子　桂川力三』 川原町有志一同 ●『恵比寿に鯛』油町二番組 ●『侠客　唐犬権兵衛』 鉈屋町有志一同 ●『鬼若丸(鯉乗り)』馬町一番組 ●『検非違使(右大臣・左大臣)』 材木町有志一同
大正06年	●『源為朝奮戦の体(湯上り為朝角材)』 長町消防第七部 ●『御所五郎丸と曽我五郎　夜討曾我』 鉈屋町有志一同(十文字)	●『熊谷陣屋(直実合戦語り、藤の局・相模と)』葺手町	●『牡丹蝶々』馬町 ●『宮本武蔵(塚原朴伝と)』 鍛冶町紙町若者一同 ●『義人木内宗五　直訴の体(殿様と侍従と捕り手と佐倉宗五郎)』 大手先通り ●『武勇　悪七兵衛景清(牢破り、裸人形)』新穀町寺ノ下若者一同 ●『小野道風』鉈屋町 ●『荷鉦鼓』内加賀野 ●『麒麟太鼓』本町子供連
大正07年			●『八幡宮奉納品』下小路若者連

奉納年	武者もの	歌舞伎もの	その他
大正08年			●『神旗／武者人形』紺屋町第四部
大正09年	●『俵藤太秀郷公(鎧姿、橋下に龍蛇)』油町若者一同 ●『坂上田村麻呂　蝦夷征伐／トンネルを潜る列車(山田線開通祝)』よ組	●『三条小鍛冶／国勢調査』本町有志第五部 ●『天竺徳兵衛』鉈屋町有志一同	●『鯉』新田町若者連 ●『尼子十勇士　早川鮎之助(横向き)』川原町 ●『蛸』一番組 ●『奉納常夜燈』長町
大正10年	●『鎮西八郎為朝の弓勢(鬼と弓引き)／養老の滝』消防第十部(新田町)	●『毛剃九右衛門／ひょっとこ踊り』十三日町	●『塙団右衛門　岩見重太郎／二宮金次郎』穀町有志一同 ●『釣鐘弥左衛門奮闘の躰／舌切り雀(葛篭負い)』消防第七部 ●『対の神鏡』米内消防組一同 ●『野狐三次／は組の頭取』消防組第一部　元は組 ●『め組の辰五郎(梯子)／鯉の滝登り』新馬町餌差小路若者連 ●『乙若丸』青物町有志一同
大正11年		●『和藤内　千里ヶ竹』消防第五部	●『八幡宮奉納品(天蓋)』山岸若者連 ●『奉納衝立(龍の浮彫入り)』消防第三部 ●『稲荷(狐に乗った老神)』中野消防組 ●『鯛』魚がし ●『幡隋院長兵衛(角材)／養老の滝』鉈屋町若者連 ●『桂川力蔵(水垢離)』三戸町若者連 ●『赤穂浪士　大高源吾忠雄』馬町二若連
大正12年		●『梅王丸(どてらに笠)』八幡町	
大正13年	●『碇知盛(船なし)』新穀町若者連 ●『日吉丸』油町若者連	●『侠客　花川戸助六』消防第二部若者連	●『侠客　濡髪長五郎』中野消防組 ●『丸橋忠弥(井戸端)』仙北組町一番組 ●『八幡宮奉納品(矛と楯)』厨川若者連 ●『献額　神宮皇后凱旋／石割桜』十三日町 ●『花の神酒徳利と三方』新田町
大正14年	●『義経八艘飛び(２体で義経が下)』鉈屋町神子田有志 ●『源頼光(鬼退治・鎧姿)』消防第五部	●『佐々木高綱(歌舞伎鎌倉三代記)』加賀野有志 ●『菊畑(鬼一法眼と牛若丸)』紙町・鍛治町有志	●『献額／床下の荒獅子男之助』八幡町一同 ●『高田馬場の仇討ち』は組 ●『浪花三侠客　鯉と音吉(船付き)』上小路若者連 ●『侠客　片腕喜三郎(橋上)』消防第七部
大正15年	●『湯上り為朝(桶･2体)』一番組二若連 ●『新田義貞(１体･抜き身を捧げる)』大工町小供連 ●『楠正行(四条畷)』二番組	●『逆櫓樋口(櫂)』材木町	●『弓張月　嶋の為朝(弓：２体)／塩汲み』米内組 ●『一心太助(悪侍退治)』よ組 ●『世界の偉人　原敬』新馬町･水原町若者連
昭和02年	●『那須与一』め組	●『和唐内(紅流し)』川原町若者連	●『曽我兄弟(少年時代)／二人比丘尼』大工町子若連 ●『小野川喜三郎(有馬妖猫退治)』は組 ●『堀部安兵衛(討ち入り：２体)』馬町二若連 ●『幡隋院長兵衛水野屋敷風呂場』

奉納年	武者もの	歌舞伎もの	その他
			内外加賀野・新小路・天神町有志 ●『四神旗／大國主尊』 下厨川若者連 ●『四神旗』新田町ろ組
昭和03年	●『加藤清正』二番組 ●『村上義光』大工町	●『豪傑自雷也／綱手』新盛組 ●『樋口次郎兼光(碇脇抱え)』 青物市場青年会 ●『船頭松右衛門(歌舞伎ひらかな盛衰記)』新穀町	●『鰹』魚若連 ●『清水一角』は組
昭和04年	●『坂田の金時(蜘蛛退治、蜘蛛とつぶし人形)』一番組 ●『仁田四郎忠常』川原町若者連 ●『猪早太ぬい退治』大工町大若組	●『墨染めの櫻(関の扉、大伴黒主と桜の精)／喜撰法師』新盛組	●『日本銀次(殿様入３体)／錦祥女』 よ組 ●『火消しの華　め組の辰五郎(つぶし有)』三戸町玉組連 ●『四ツ車大八(火消しのつぶし)』 新穀町有志 ●『恵比寿鯛釣』本組 ●『大黒天(二股大根乗り)』 葺手町若者連
昭和05年	●『地震加藤』一番組	●『天竺徳兵衛韓噺(昇降式)』玉組 ●『松前鉄之助』消防第六部 ●『安宅丸』三番組 ●『石橋』か組 ●『大蛇丸』友若会(大工町)	●『大岡政談　丹下左膳』は組 ●『南部忠臣　相馬大作／藤娘』 鍛冶町
昭和06年		●『和藤内(紅流し)』か組	●『武蔵坊弁慶(釣鐘弁慶)』は組 ●『一心太助　蓮華往生見破りの場』 一番組 ●『丸橋忠弥(煙管)』よ組 ●『八幡宮奉納品』大工町
昭和07年	●『弘安四年蒙古襲来　河野通有奮戦』 一番組 ●『熊谷次郎直実(兜なし、馬上で扇上げ)』は組	●『戻り橋(渡辺綱と夜叉)』め組 ●『市原野(鬼童丸と牛) ／平井保昌(笛吹き)』本組 ●『熊谷陣屋(直実と義経)』三番組	●『古賀聯隊長(軍人の地球儀乗り)』 水原町(第八部)
昭和08年	●『牛若弁慶』川原町 ●『為朝大(犬)蛇退治』青物町	●『和藤内(虎退治)』仙北組町 ●『矢の根　曽我五郎(矢研ぎ)』 よ組 ●『車引き(時平と梅王)』め組	●『唐犬権兵衛』二番組 ●『右大臣・左大臣』材木町 ●『伊勢海老』魚河岸 ●『馬印』梨木町
昭和09年	●『桃太郎鬼退治』は組		
昭和10年	●『壇ノ浦　景清鋏引』め組 ●『本能寺(森蘭丸)』一番組	●『八犬傳　犬村大角庚申山に怪猫を退治す』新盛組 ●『石橋の体(親獅子１体)』 川原町若者連 ●『松前鉄之助／石橋』よ組	
昭和11年		●『解脱景清(鐘横倒し)』い組 ●『八犬傳(芳流閣)』一番組 ●『碁盤忠信(1体)』新穀町新若組 ●『先代萩　松前鉄之助』新田町ろ組 ●『毛剃九右衛門』新東組	●『花籠』青果組
昭和21年			●『五穀俵』菜園大通青年会
昭和22年			●『早川鮎之助』二番組 ●『幡隋院長兵衛』青果市場
昭和23年	●『巴御前』一番組	●『樋口兼光』め組 ●『勧進帳(巻物１体)／勢獅子』 よ組	●『桂川力蔵』は組
昭和24年	●『本能寺　森蘭丸』二番組	●『国姓爺合戦(和藤内紅流し)／養老の滝』新盛組 ●『連獅子(橋あり)』新穀町青物市場	

奉納年	武者もの	歌舞伎もの	その他
昭和25年	●『宇治川先陣』生姜町有志 ●『島の為朝』新穀町新若	●『大森彦七(彦七と千早姫)／茶筅売り(玉屋)』新盛組	●『遠山桜』三番組 ●『大鯛』魚市場
昭和26年	●『出世　嶋の為朝(角材上げ、つぶし有)』青物町 ●『橋弁慶』二番組	●『助六』い組 ●『菅原伝授手習鑑　車引き(松王と梅王)』三番組 ●『白縫譚(若菜姫蜘蛛乗り)／金時(どてら姿)』新盛組 ●『松前鉄之助』新東組	
昭和27年	●『島の為朝(山犬)／小野道風』二番組	●『石橋(親獅子１体)』か組 ●『和藤内(紅流し)』め組	●『桂川力蔵』川原町 ●『弁慶(釣鐘弁慶)』一番組 ●『丸橋忠弥(煙管)』本組
昭和28年		●『碁盤忠信(碁盤持ち、つぶし有)／静御前』新馬町 ●『京鹿子娘道成寺(竹抜きの押戻しと夜叉)／勢獅子』三番組 ●『毛剃九右衛門(人形・船・波だけ)／さらし』新盛組	●『夜討ち曽我(五郎刀、十郎笠)／大磯の虎』本町 ●『乙若丸』仙北町仙若 ●『日本銀次』よ組 ●『早川鮎之助』新東組
昭和29年	●『新田義貞』本組 ●『川中島』二番組	●『梅王丸　車引の場(梅王と時平)』い組 ●『豪傑児雷也／綱手』新盛組 ●『勧進帳　弁慶(六方)』穀町	●『丸橋忠弥(井戸端･捕り手)』は組
昭和30年	●『橋弁慶／常盤御前』川原町	●『三条小鍛冶』本町 ●『暫(花道掛り)』肴町 ●『根元草摺引の場』三番組	●『滝窓志賀之助　鯉退治』と組 ●『濡髪長五郎』一番組 ●『舞猩猩／養老の瀧』盛岡酒商組
昭和31年	●『那須の与一』本組 ●『碇知盛』新穀町新若 ●『朝比奈三郎』一番組二老会 ●『村上義光(山伏)』二番組	●『和藤内(虎退治)／酒井田柿右衛門』よ組	
昭和32年	●『為朝(浴衣で刀、２体)』仙組 ●『義経八隻飛び(２体)／静御前』め組		●『幡隋院長兵衛』穀町
昭和33年	●『四条畷／司馬温公』川原町川若 ●『蘭丸忠戦の場』一番組		●『釣鐘弁慶(丸太に鐘下げ)』は組 ●『黒田武士』か組
昭和34年	●『日吉丸／かぐや姫』二番組 ●『羅生門』め組	●『暫(元禄見得)／藤娘』い組 ●『里見八犬伝　芳流閣の場／京鹿子娘道成寺』三番組	●『奉納釣燈籠眞榊／浦島太郎』本組
昭和35年	●『仁田四郎忠常』二番組	●『大江山　酒天童子(歌舞伎風１体)／八幡祭』片原町夕顔瀬会 ●『矢の根五郎(矢研ぎ)』よ組 ●『勧進帳(六方)／鏡獅子(弥生)』い組	●『四ツ車大八(悪侍と)／白馬童子』盛岡青果小売商組合･青果市場 ●『乙若丸(鯉の尻尾が後ろに出ている)』親和会(青物町・駒形町・仙北町)
昭和36年	●『地震加藤／玉屋』か組	●『景清解脱／花川戸助六』い組	●『桂川力蔵(２体)／養老の瀧(酒屋の宣伝)』仙組 ●『鯛釣り(恵比寿、大鯛の尻尾が後ろに出ている)』盛岡消友会 ●『大黒神／寶船』大工町
昭和37年	●『鵜越の義経／金山踊り(男人形)』本組 ●『村上彦四郎義光(鎧)／舌切り雀(お爺さんとすずめ娘)』東組	●『碁盤忠信(２体碁盤持ち、隈１本)／秋の実り(りんご娘)』は組 ●『英執着獅子の場(石橋親獅子と脇侍)／胡蝶』三番組	●『乙若丸(紺鯉)／ゆかり燈篭(鯉の尻尾が後ろに出ている)』よ組
昭和38年	●『川中島／八重垣姫』め組 ●『島の為朝(弓、２体)』二番組	●『石橋(和装の親獅子１体)／胡蝶舞』八幡町いの字会 ●『小鍛冶／五郎時致(雨の五郎：黒で巻物)』か組 ●『操り三番叟(太夫と)』玉組(三戸町内会)	
昭和39年	●『森蘭丸／養老の瀧(酒屋の宣伝)』仙組	●『松前鉄之助／仁木弾正(裃袖抜き、刃傷)』い組	●『安倍宗任(宗任の公家姿と官女)』三ツ家町内会わ組

奉納年	武者もの	歌舞伎もの	その他
		●『豪傑兒雷也(蝦蟇の口が動く)』 城下組(菜園町内会) ●『毛剃九衛門／養老の滝』 一番組	
昭和40年	●『村上義光(山伏)／児島高徳』 め組 ●『碇知盛／小野道風』一番組 ●『加藤清正』二番組	●『五郎時致(どてら姿１体)／藤娘』 よ組	
昭和41年	●『畠山重忠／旗持』は組 ●『嶋の為朝(弓、老臣)／かぐや姫』 東組 ●『屋嶋の扇の的(馬上の与一と船と玉虫)／牛若丸』盛岡消友会(本組)	●『寺子屋　車引(時平と梅王)／桜丸』 い組 ●『春興鏡獅子(胡蝶と)／小姓彌生』 か組	●『長兵衛風呂場』本町通組
昭和42年	●『稲村ヶ崎(新田義貞：せり上げ式)／猩々』一番組	●『車引き(時平と松王)』本組 ●『紅葉狩』い組	●『八岐大蛇』二番組 ●『夜討曽我(五郎刀、十郎笠)／大磯の虎』三番組
昭和43年		●『碁盤忠信(2体碁盤投げ、隈１本)／静御前』い組 ●『鏡獅子／酒蔵造り』よ組 ●『狐忠信(鳥居前、人形抱込・大鳥居)／玉屋』玉組 ●『国姓爺和藤内(紅流し)』 城西組(旧国鉄)	
昭和44年	●『宇治川先陣／ゑびらの梅(梶原景季)』め組 ●『川中島(兜の上に頭巾)／黒田武士(酒屋の宣伝)』二番組 ●『五条の橋／花咲爺』と組 ●『嶋の為朝（弓、２体）／おけさ踊り』み組	●『二人石橋／元禄花見踊り』か組 ●『松前鉄之助(政岡付、せり上げ式)』 一番組	
昭和45年	●『巴御前／猩々(酒屋の宣伝)』 一番組 ●『村上義光(山伏)／(酒屋の宣伝)』 本町通組	●『羅生門(歌舞伎風、屋根上)／三面子守』玉組 ●『和藤内(紅流し：着物は金襴)／供奴』い組	●『つり恵比寿／助六』わ組 ●『司馬温公』鉈屋・川原両町丁印
昭和46年	●『本能寺の変　森蘭丸／児島高徳』 油町ゑ組 ●『義経八艘飛び(２体)／勧進帳』 盛岡建設工業会	●『仁木弾正(白塗り)／黒田武士』 い組 ●『勧進帳(富樫と弁慶)／牛若丸(笛吹き)』三番組 ●『暫らくの場(大太刀振り下ろし)／猩々』穀町	●『矢立峠　相馬大作(2体)／養老の滝』は組 ●『盛岡城』盛岡城建設促進同盟会
昭和47年	●『義経八艘飛び(1体)』よ組 ●『児島高徳／阿波踊り』い組	●『連獅子(橋なし)／胡蝶』か組 ●『和藤内(虎退治)／角兵衛獅子』 本組	●『釣鐘弁慶』二番組
昭和48年	●『義経弓流し／猩々舞(扇)』 め組二八会 ●『源三位頼政鵺退治』 三和会(油町・花屋町・大工町) ●『川中島(謙信左から、兜の上に頭巾)／汐汲み』み組	●『里見八犬伝　芳流閣の場／汐汲み』 三番組	●『鬼若丸(赤鯉が白牡丹側から見返しまで)』一番組 ●『幡隋院長兵衛／花咲爺』と組
昭和49年	●『碇知盛(口髭、肩に艫綱)／藤娘』 菜園橘産業 ●『南部利直公大蛇退治(背景に盛岡城)／石割桜』本組七友会	●『碁盤忠信(2体碁盤持ち、水色衣装)／汐汲み』い組	●『紀の国屋文左ヱ門(2体：帆が上がる)／京鹿子娘道成寺(笠踊り)』 わ組
昭和50年	●『五條の橋(弁慶が鉢巻)／養老の滝』 は組 ●『仁田四郎忠常／手習子』 橘産業ホテルロイヤル盛岡 ●『義経八艘飛び(2体)／石割桜』 め組	●『児雷也(六方、蝦蟇の口が動く)／菊づくし』二番組 ●『狐忠信／供奴』い組 ●『和藤内(紅流し)／藤娘』み組	●『日本銀次／奉納錦旗』よ組 ●『曽我の狩場(曽我五郎と御所五郎丸)／うちわ賣り』か組

奉納年	武者もの	歌舞伎もの	その他
昭和51年	●『佐々木高綱』一番組 ●『安倍貞任(ざんばら、つぶし有)／杜氏』三和会 ●『森蘭丸』盛岡左官業組合(南大通) ●『児島高徳／藤娘』青山組 ●『加藤清正(虎退治)／道成寺』橘産業ホテルロイヤル盛岡	●『景清(釣鐘)／花川戸助六(煙管)』い組 ●『弁慶安宅の関(六法)／富樫左衛門尉泰家(非歌舞伎)』と組	●『清水一角／元禄花見踊り』盛岡材木建材協会(長田町) ●『鬼童丸／南部火消』本組
昭和52年	●『大楠公出陣(2体と馬)／汐汲み』橘産業ホテルロイヤル盛岡	●『紅葉狩／花咲爺』い組 ●『歌舞伎十八番　景清牢破里(2体)／吉原雀』わ組 ●『暫(素手)／棒しばり』よ組	●『八岐大蛇／南部からめ踊り』二番組
昭和53年	●『坂上田村麻呂／味の良い太田米』太田同好会 ●『川中島／金山踊り(2体)』め組	●『暫(大太刀)／鏡獅子』い組 ●『安宅の関(弁慶杖折檻2体)／鞍馬山(牛若と烏天狗)』や組 ●『連獅子(橋あり)／花咲爺』盛岡観光協会	●『四ツ車大八／雫石あねっこ』三和会
昭和54年	●『鵯越の逆落とし(義経)／一休さん(酒屋の宣伝)』は組 ●『那須与市／桃太郎侍』テレビ岩手（め組流） ●『蘭丸忠戦の場／花咲爺』一番組 ●『八幡太郎義家(雁を見る)／桃太郎』盛岡観光協会	●『五郎時致(2体)／槍踊り(男装の舞子)』三番組 ●『助六江戸桜／元禄花見踊り』か組 ●『仁木弾正／記念奉納御旗』三和会	●『夜討曾我／大磯の虎(陣幕上げ)』い組 ●『桂川力蔵／石割桜(植木屋と)』盛岡造園組合 ●『猩猩／鏡開き』酒商組(よ組流)
昭和55年	●『新田義貞(藤島の合戦)／小野道風』と組 ●『五条の大橋／花咲爺(観光協会S53)』盛岡観光協会	●『連獅子(観光協会S53)／桃太郎(観光協会S54)』か組 ●『自来也／綱手姫』み組	●『浦島太郎(亀の首が動く)／養老の滝(酒屋の宣伝)』二番組
昭和56年	●『島の為朝(山犬・大蛇と)／藤娘』西仙北駒形会 ●『川中島／娘道成寺(笠踊り)』盛岡観光協会	●『地雷也(六方)／八重垣姫』青山組 ●『釣鐘景清／牛若丸(笛吹き)』盛岡山車推進会 ●『雨の五郎(白・巻物)／かむろ』い組 ●『和藤内(紅流し)／手古舞』よ組	
昭和57年	●『碇知盛／花咲爺』一番組 ●『ゆはずの霊泉／金山踊り(2体)』三和会 ●『義経弓流し／天然記念物　石割桜』め組	●『暫(大太刀：素襖閉じ)／鯉の滝のぼり』い組 ●『鏡獅子(胡蝶と)／かぐや姫(誕生)』盛岡観光協会	●『日本銀次／藤娘』わ組
昭和58年	●『島の為朝(弓、2体)／藤娘』は組 ●『八幡太郎義家(雁を見る)／かぐや姫(観光協会S57)』城西組	●『鏡獅子／胡蝶の精』い組 ●『矢の根五郎(矢研ぎ)／供奴』盛岡観光協会 ●『三条小鍛冶』紺屋町丁印	●『早川鮎之介／養老の滝』二番組 ●『小野道風／鯉の滝登り』いろは組子供山車
昭和59年	●『佐々木高綱／中野りんご娘』と組 ●『畠山重忠／養老の滝』な組 ●『朝比奈三郎義秀／花咲爺』一番組 ●『四条畷／外山あね子(2体)』盛岡観光協会	●『碁盤忠信(1体)／御神酒樽（注連縄を張った酒樽9個)』い組 ●『吉例　寿曽我／南部火消し』本組 ●『菅原伝授手習鑑　車曳の場(松王と梅王)／京鹿の子道成寺(鐘)』三番組	
昭和60年		●『連獅子(観光協会S53)／外山あね子(観光協会S59)』南大通り二丁目 ●『石橋(2体)／胡蝶』か組 ●『勧進帳(弁慶と富樫)／道成寺(笠踊り)』盛岡観光協会	
昭和61年	●『義経八艘飛び(2体)／牛若丸』め組	●『勧進帳(六方)／静御前』よ組 ●『碁盤忠信(2体碁盤投げ)／道成寺』盛岡観光協会 ●『雨の五郎(白・傘のみ)／かむろ』	●『四ツ車大八／京都白川花売り娘』樋下建設グループ

奉納年	武者もの	歌舞伎もの	その他
		い組 ●『和藤内(紅流し)／藤娘』み組	
昭和62年	●『北天の魁　安倍貞任(騎馬武者)／藤娘』は組 ●『村上義光(鎧)／中野りんご娘』と組 ●『仁田四郎忠常／三番叟』二番組 ●『新田義貞／手ならい子』盛岡観光協会 ●『日吉丸／盛岡さんさ踊り』城西組	●『和藤内(虎退治)／藤娘』本組七友会	●『夜討ち曽我／大磯の虎』い組
昭和63年	●『楠木正行　四条畷／花咲爺』一番組 ●『村上義光(山伏)／からめ踊り(2体)』盛岡観光協会	●『鏡獅子／胡蝶の精』い組 ●『里見八犬伝　芳流閣の場／滝夜叉』三番組 ●『連獅子』紺屋町丁印	
平成元年	●『安倍貞任(ざんばら、つぶし有)／胡蝶』か組 ●『児島高徳／花咲爺』一番組 ●『佐々木高綱／ぶんぶく茶釜』な組 ●『南部信直／盛岡の女』盛岡観光協会	●『雨の五郎(黒・巻物)／かむろ』い組 ●『根元草摺引／滝夜叉(三番組 S63)』三番組 ●『碁盤忠信／静御前』さ組	●『風雲児　坂本竜馬／寺田屋養女お竜』東日本ハウス ●『大黒さん／養老の滝』二番組 ●『船弁慶／静御前』城西組
平成02年	●『義経弓流し／牛若丸』め組	●『暫(大太刀：素襖閉じ)／鏡獅子(弥生)』い組 ●『暫(大太刀：素襖開き)／藤娘』さ組 ●『鏡獅子／胡蝶(鞨鼓なし)』よ組 ●『連獅子(観光協会 S53)／からめ踊り(観光協会 S63)』盛岡劇場振興会 ●『児雷也／綱手姫』み組 ●『歌舞伎十八番　景清(2体)／滝夜叉(三番組 S63)』青山組	●『清水一角／汐汲み』わ組 ●『黒田武士　名槍日本号／供奴』盛岡観光協会
平成03年	●『藤吉郎初陣(足軽姿、騎馬武者突き)／春駒』と組 ●『森蘭丸／さんさ踊り』盛岡観光協会 ●『碇知盛／花咲爺(一番組より)』城西組	●『釣鐘の景清／汐汲み』さ組 ●『碁盤忠信(1体)／静御前(吉野山)』い組 ●『石橋(2体)／胡蝶』お組 ●『連獅子(橋なし)／菊づくし』や組 ●『矢の根(矢研ぎ)／お祭り』南大通り二丁目	
平成04年	●『朝比奈三郎／あめ売り』盛岡観光協会 ●『熊谷次郎直実(兜あり、扇は水平)／平敦盛　青葉の笛』は組	●『車引き(松王と時平)／藤娘』本組 ●『安倍貞任(歌舞伎1体)／藤娘(笠を取って手に)』城西組 ●『京鹿子娘道成寺押戻し／羽根の禿』三番組 ●『鏡獅子／胡蝶の精』い組 ●『雨の五郎(白・巻物なし)／静御前』さ組	●『幡隋院長兵衛／南部火消し』二番組 ●『釣鐘弁慶／花咲爺』一番組
平成05年	●『前九年の合戦(貞任宗任鎧姿)／娘道成寺(笠)』か組 ●『加藤清正／鯉の滝登り』な組	●『紅葉狩／小鳥売り』盛岡観光協会 ●『元禄忠臣蔵　御浜御殿綱豊卿／女暫』さ組	●『紀ノ国屋文左衛門／羽根の禿(三番組 H4)』城西組 ●『夜討曽我／大磯の虎』い組 ●『日本銀次／手古舞』よ組
平成06年		●『若菜姫／金時(腹かけ)』み組 ●『石橋(2体)／娘道成寺』青山組 ●『源九郎狐／藤娘』城西組 ●『勧進帳(六方)／わんこ娘』の組 ●『堀川事件　碁盤忠信(1体)／安里屋ユンタ』さ組 ●『雨乃五郎(黒・巻物)／かむろ』	●『猩々／小野道風』盛岡観光協会 ●『八岐大蛇／藤娘』二番組

奉納年	武者もの	歌舞伎もの	その他
		い組	
平成07年	●『南部利直公／牛若丸』は組 ●『新田義貞／胡蝶』わ組 ●『山内一豊　名馬の誉れ／中野りんご娘(2体)』と組	●『矢の根(駆け出し)／藤娘(振出笠)』さ組 ●『元禄忠臣蔵　御浜御殿綱豊卿／女暫』さ組(女性だけの山車) ●『暫(大太刀、素襖開き)／鏡獅子(弥生)』い組 ●『三條小鍛冶／鳥追い女』盛岡観光協会	●『四つ車大八／汐汲み』の組
平成08年	●『羅生門／牛若丸』め組 ●『四条畷　楠木正行／花咲爺』一番組	●『寿曽我対面／京鹿子娘道成寺(鐘)』や組 ●『狐忠信／供奴』の組 ●『鏡獅子／藤村益次郎』さ組 ●『仁木弾正／花売り娘』盛岡観光協会 ●『碁盤忠信(1体)／静御前(吉野山)』い組 ●『国性爺和藤内(紅流し)／鯉太郎』城西組	●『鎌津田甚六／大黒天』お組
平成09年		●『釣鐘景清(立鐘乗り)／南部成姫様』さ組 ●『雨の五郎／わんこ娘』の組 ●『碁盤忠信(御殿欄干、隈1本)／京鹿子娘道成寺(烏帽子)』城西組 ●『暫(素手)／手古舞』よ組 ●『歌舞伎十八番の内　矢の根(駆け出し)／菊づくし』三番組 ●『国性爺和藤内(城西組 H8)／藤娘(城西組 H6)』南大通二丁目町内会 ●『鏡獅子／胡蝶の精』い組	●『相馬大作(2体)／胡蝶』盛岡観光協会 ●『鬼若丸(黒鯉)／南部火消し』本組 ●『南部重直公(火消し姿)／南部梯子乗り』二番組

※本表は、岩手日報掲載記事および広告・現存する山車の絵紙および写真・映像資料等を勘案しまとめたものである。
※演題名については、出来得る限り奉納時の演題立て札に書かれてあったであろうものを記録し、趣向について特筆すべき点は（　）内に記載した。
※見返しについては、判明しているもののみ／の後に記した。
※上記3点については、続く「表2　一戸町の演題年譜」についても同様である。

※表1は山車を出す団体が年によって異なる盛岡の特性に合わせ、出場組ではなく演題を基準に整理している。
※奉納団体名は原則として絵番付等で確認できた団体名を記しているが、絵葉書・新聞記事等を参照した場合は引用先に合わせ、町名ないし組名のみを記した。

表２　二戸郡一戸町八坂神社・稲荷神社祭典山車の歴代演題（大正期～平成９年）

奉納年	本組	上町組	橋中組	野田組	西法寺組
大正03			岩見重太郎		
大正08	毛剃九右衛門				
昭和03					
昭和13	関口弥太郎			恵比須様	
昭和15	丸橋忠弥	村上義光(鎧)	長州義士　桂小五郎		
昭和21	釣鐘弥左衛門		武勇輝く流れに灯心湧き立つ水の色(和藤内紅流し)／花咲爺		
昭和22	早川鮎之助	岩見重太郎(松上げ)	桂川力蔵(水垢離)	野狐三次	
昭和23	清水一角		碇知盛		
昭和24			四ツ車大八(2体)		
昭和25			釣鐘弥左エ門の躰	衣川の戦(弁慶立ち往生)	
昭和26		鎮西八郎為朝(山犬大蛇)	毛剃船		嶋の為朝
昭和27			壇ノ浦八艘飛之体(2体)／あけてくやし玉手箱(浦島太郎)		
昭和28			牛若丸と弁慶		
昭和 29			建暦の変　朝比奈三郎城門を破る	天草四郎時貞	
昭和30	関口弥太郎	岩見重太郎	早川鮎之助／嶋の為朝	河野通有(元寇船戦)	
昭和31	関ヶ原本多忠朝の奮戦(武者持ち上げ)		仁田四郎／鮎掛け	羅生門	
昭和32	名槍日本号の由来(清正虎退治)		曲垣平九郎／赤胴鈴之助	石川五右衛門(釜茹で)	
昭和33	桃太郎	四ツ車大八	釣鐘弁慶	児雷也	
昭和34			巴御前	国定忠治　水門破りの場	
昭和35	知盛の亡霊(義経と弁慶と知盛)		黒田武士／かぐや姫	四ツ車大八(荷車ごと上げ)	引窓　濡髪長五郎
昭和36	濡髪長五郎		日吉丸／乙若丸(鯉乗り)	三好清海入道(石灯籠上げ)	羅生門／白馬童子
昭和37	坂崎出羽守千姫救出の場(千姫を背負う姿)	柴田勝家　かめ割の場	川中島／ぶんぶく茶釜(お寺の場面)	日蓮大聖人	鎮西八郎為朝(1体鎧姿)／花川戸助六
昭和38	義経　高館に奮戦(欄干、義経と奥方)	武蔵小次郎　巌流島の決闘	牛若弁慶／かちかち山(狸の泥舟)	俵星玄蕃	本能寺(森蘭丸)
昭和39	乙若丸　化鯉退治	扇の的	有馬の猫騒動／兎と亀のオリンピック	池田屋騒動	夜討ち曽我(曽我十郎と仁田四郎)
昭和40	小早川隆景と岩見重太郎	町火消し纏一代	清水一学(2体)／乙若丸	碇知盛(碇を縦抱え)	甕割り柴田
昭和41	釣鐘弥左衛門		ひよどり越えの畠山重忠／ぶんぶく茶釜	朝比奈三郎	義経八艘飛び(2体)
昭和42	遠藤盛遠	任侠一代町火消し	自雷也／おわんの舟にはしのかい	赤穂浪士　大高源吾(2体)	吉野千本桜(忠信と悪僧)
昭和43	なし	なし	大蛇丸	(野田坂町内会)恵比寿さま	なし
昭和44	なし	一心太助	天と地と　川中島	武田の軍師　山本勘助(片目に矢)	牛若丸と弁慶
昭和45	早川鮎之助	釣鐘弁慶	黒田武士／火消し橋中組	早川鮎之助	歌舞伎　先代萩(松前鉄之助)
昭和46	清水一角(2体)	牛若弁慶	大江山の鬼退治(頼光鎧姿と鬼の頭・鬼の目が動く)／うさぎとかめのロードレース	日蓮上人	釣鐘景清　解脱／柳生十兵衛

奉納年	本組	上町組	橋中組	野田組	西法寺組
昭和47	島の為朝	森蘭丸	那須與一宗隆 ／扇の的	一寸法師	南朝　村上義光 (山伏)
昭和48	早川鮎之助	紀伊国屋文左衛門	一心太助 ／おぢいさんの友釣	天慶の乱 (将門束帯姿)	村上彦四郎義光(鎧)
昭和49	なし	釣鐘弁慶／子連れ狼	本能寺(信長寝間着姿)／養老の滝	なし	なし
昭和50	素戔嗚尊と八岐大蛇 (8つの竜頭)	なし	児雷也 ／ここ掘れワンワン	なし	なし
昭和51	釣鐘弥左衛門	遠山金四郎(2体)	風と雲と虹と 平将門(若武者) ／遠山の金さん	なし	なし
昭和52	遠藤盛遠／文覚上人	四ツ車大八(1体) ／一休さん	八犬伝　芳流閣の決斗／霧の小次郎	なし	なし
昭和53	早川鮎之助	義経八艘飛び(1体)	碇知盛／水戸黄門	なし	なし
昭和54	那須與一宗高	大高源吾	村上義光(山伏) ／笛吹き童子	なし	なし
昭和55	柳川庄八時貞	町火消し纏一代 ／足柄山の金太郎	碁盤忠信(つぶし付・碁盤持ち) ／黒田武士	なし	なし
昭和56	天慶の乱(藤原純友)	義に燃える俵星玄蕃 ／浦島太郎	四ツ車大八(2体) ／桃太郎侍	なし	なし
昭和57	関口弥太郎 ／山中常全入道	佐々木四郎高綱	清水一角(2体) ／乙若丸	(野田子供育成会) うらしまたろう	なし
昭和58	酒顛童子と頼光 ／一寸法師(茶碗舟)	川中島の合戦	曲垣平九郎 ／桃太郎(鬼退治)	平将門奮戦の場 (束帯姿)	本能寺の変 (鎧の村上義光と同じ構図)
昭和59	新門の辰五郎	森蘭丸　本能寺の変	巌流島／早川鮎之助 (浴衣を着ない腹帯褌のみの裸人形)	碇智盛	村上義光(山伏)
昭和60	仁田四郎忠常	那須與一	真田幸村／千姫	児雷也	五条の荒法師
昭和61	義経八艘飛び(1体) ／安徳天皇	釣鐘弁慶	本能寺の変(信長寝間着姿)／一寸法師 (茶碗舟、お姫様)	独眼竜政宗	小楠公
昭和62	畠山二郎重忠 ／巴御前	伊達政宗	岩見重太郎ヒヒ退治 ／梵天丸(稽古役の女房と)	四ツ車大八	勧進帳(六方)
昭和63	加藤清正虎退治 ／奇襲兀良介	牛若丸と弁慶 五條大橋出会の場	決戦川中島(謙信が兜)／乙若丸	野狐三次	新田義貞／花咲爺
平成 元年	碇知盛 ／健礼門院の出家	四つ車大八	一心太助／黒田武士	大高源吾	村上義光(山伏) ／からめ踊り
平成02	幡隋院長兵衛／助六	まとい一代 ／笑うセールスマン	那須與一／扇の的	碁盤忠信(つぶし付・碁盤投げ) ／ぶんぶく茶釜	江戸火消し
平成03	楠木正成／新田義貞	藤原純友	義経八艘飛(1体) ／たつのこたろう (竜が動く)	畠山重忠 ／かちかち山	鏡獅子(髪洗い)
平成04	西塔鬼若丸 ／弁慶の最期	平将門(若武者)	牛若丸・弁慶 ／うらしまたろう (亀が動く)	弁慶立ち往生 ／金太郎	暫(大太刀)
平成05	朝比奈三郎義秀	岩見重太郎(松上げ) ／かぐや姫	源頼光蜘蛛退治(蜘蛛の口が動く) ／かぐや姫	幡隋院長兵衛 ／ももたろう	景清(釣鐘の景清) ／藤娘
平成06	前九年の役　安倍頼時／安倍貞任	幡隋院長兵衛	児雷也 (蝦蟇の口が動く) ／カミナリ様	豪商一代 紀の国屋文左エ門 ／鞍馬山の若天狗	雨の五郎(巻物、白)
平成07	釣鐘弥左衛門 ／遊女お菊	滝間戸の志賀之輔 ／桃太郎(鬼退治)	小楠公／銭形平次 (銭投げのからくり)	早川鮎之助／とんちの一休さん(橋)	加藤清正／鳥売り
平成08	本多忠朝 (武者持ち上げ)	和藤内(虎退治・裸人形)／西遊記	黒田武士 ／金太郎バケ鯉退治 (鯉の口を動かす)	俵星玄蕃／花さかじいさん(犬つき)	勧進帳(六方)
平成09	船弁慶(1体) ／静御前	紀伊国屋文左衛門 (帆が伸びる) ／もののけ姫(サン)	鏡獅子 ／金の斧・銀の斧	遠山金四郎 ／つるのおんがえし (逃れる鶴)	矢の根(矢背負い)／ 根反の鹿踊り